



# 秋田の未来を創造する！ ドローン技術を昇華させ、

東光鉄工株式会社 UAV事業部



UAV事業部  
シニアマネージャー  
**鳥潟 與明**  
Tomoaki Torigata

## 東光鉄工株式会社 UAV事業部

〒017-0021 秋田県大館市雪沢字鴉ヶ谷256-1  
TEL. 0186-57-8755  
FAX. 0186-57-8681  
E-mail uav@toko-akita.co.jp  
URL http://tokouav.jp/

【会社概要】  
ニプロハチ公ドーム(大館樹海ドーム)を始め、各種鋼構造物の設計製作、機械装置・プレス金型の設計製作、施工、据付などを行う東光鉄工株式会社の、ドローンを専門に取り扱う事業部。各種ドローンの製造・販売・整備点検・教習の他、行政と連携した防災活動、普及活動を行う。  
創設年:2015年



ドローン技術によって農業や防災を変革させられる可能性を追い求め、日夜、研究開発に打ち込む!

### ドローンの研究開発がスタート

2014年3月に廃校となった旧雪沢小学校の校舎に本拠を構える、東光鉄工株式会社 UAV事業部。大型建造物の鉄骨の製作やドーム型倉庫の建築、産業機械の製造販売など、多岐に渡る事業を行ってきた東光鉄工が、未来への投資と位置付けて立ち上げた事業部だ。産業用ドローンの研究開発を中心に、製造と販売、操縦技能の講習や免許教習なども行う。

UAV事業部の代表を務める鳥潟與明氏は、職業能力開発総合大学校能力開発研究センター教材研究室室長、北海道職業能力開発大学校副校長などを歴任し、長らく教育・研究に携わってきた人物。退職後、地元大館に戻り、東光鉄工社長からの要請を受け、UAV事業部のシニアマネージャーに就任した。

産業用ドローンの未来について、鳥潟氏は多様な活用法を語る。風力発電機、ソーラーパネル、橋梁などの大型建造物の劣化を点検できるサーモグラフィカメラ搭載ドローン、災害を未然に防ぐために河川や山岳地帯の異常箇所を探索する調査ドローン、肥料や農薬を自動散布する農業用ドローン、宅配用ドローンと、可能性は無限大だ。

開発が先行しているのは農薬散布用ドローン。従来のラジコンヘリと比べると安価であり、操縦も簡単で、稲穂の倒伏などのダメージも軽減されるため、導入を検討する個人農家が増えている。さらに、同社の製品は国内の他メーカーのものに比べてもコストパフォーマンスに優れており、東北のみならず日本全国に販



A 旧校庭を飛び、農業散布用マルチコプター TSV-AH1  
B 旧職員室の工場では機体の組み立て作業中

路を拡大している。東北唯一の製造と整備を行える工場である点も大きな強みとなっている。

### 未来への夢は果てしない

旧雪沢小学校の校舎は今や、ドローン開発の研究所、教習所を備えた総合拠点となっている。グラウンドは要求規格に十分な余裕を持つ飛行試験場、体育館は雨天や夜間の練習施設としても活用されており、将来的にはドローンの部品生産からソフト開発、機体製造までを一気通貫で行うテクノパークを構想している。

東光鉄工のドローン開発の目的は地域貢献であり、農業や防災、宅配への活用は大きな意義を持つ。同社が提案するドローンは単に飛行するだけに留まらない。例えば、農業用ドローンであれば、撮影した画像から稲の生育状況を細かく診断して、極小区画ごとに適量の肥料や農薬を自動散布するなど、本来ベテラン農家が持っている技術を最先端科学技術に裏付けされた「農作物生育状況を判断し、適切で緻密な農作業を誰もが行える」ところにまで付加価値を高めることを目指しており、完成間近となっている。作業の省力化と同時に農作物の質を最大限に高めることができ、経験の浅い農家や新規就農者への一助となることが期待される。「未来への投資」としてドローン開発に取り組む東光鉄工、同社が切り拓く未来は秋田県の未来そのものでもある。